＜ 実践事例 ＞　　国　語

調査結果と指導事例の関連

言語事項にかかわる内容	構成や展開の読解に関する内容
・各学年に配当されている漢字を読む ・前学年に配当されている漢字を書く ・対義語の意味と用法が分かる ・漢字の読みを仮名遣いに注意して正しく書く ・日常の場面を想像して正しい敬語表現を選ぶ ・文と文との意味やつながりを考えて指示語や接続語を使う ・熟語を構成している漢字の関係を理解し類別する	・文章全体における段落の役割が分かる ・段落相互の関係をとらえる ・段落の要旨を的確にとらえる ・接続語に注意して段落と段落のつながりをとらえる ・中心の語をとらえて文章を正しく読む ・重要語句の意味を正しくとらえる

平成13年度の調査結果によると、学習の定着状況は全体的には良好であるが、各設問の結果を詳しく見ると、上記の項目において、正答率が 80%に満たない問題が一部に見られた。そこで、これらの項目の中から、重要語句や接続語などの「言語事項」と、段落構成の明確な説明的な文章の「読むこと」と「書くこと」を関連付けた単元を構成することによって基礎的・基本的な内容の定着を図ることとした。

1　単元名　「わたしたちの体について調べよう」　小学校第４学年

2　単元のねらい

国語への関心・意欲・態度…関	読む能力…読	書く能力…書	言語についての知識・理解・技能…言
「体を守る仕組み」に関心をもち、進んで学習しようとする。	自分たちの体について興味をもち、段落相互の関係を考えながら文章を正しく読む。	体について調べたり、考えたりしたことを工夫しながらまとめる。	文章全体における段落の役割を理解し、文と文の意味のつながりを考えながら指示語や接続語を使う。

3　基礎的・基本的な内容の定着を図るための手だて

（1）　教材研究

本単元における基礎的・基本的な内容と既習事項の関連

既習の基礎的・基本的な内容	本単元における基礎的・基本的な内容
○目的に応じて中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読む。（３年「チューリップ」、「ひらけていく海」、４年「しょうたいじょうを作る」、「春の歌」、「ツバメが住む町」）	○自分たちの体について興味をもち、段落相互の関係を考えながら文章を正しく読む。（関心・意欲・態度、読むこと）
○表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる方法を理解する。（３年「国語辞典たんけん」、４年「漢字辞典の使い方」）	○体について疑問に思うことを資料を読んで調べる。（読むこと）
○書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。（３年「しょうたいじょうを作る」、「知っている場所を教える」、「本のおびを作ろう」、「ちいちゃんのかげおくり」、「調べたことを発表しよう」、４年「きつつきの商売」、「こんなことしたいな」、「言葉でスケッチ」）	○調べたり、考えたりしたことを工夫しながらまとめる。（書くこと）
○文章全体における段落の役割を理解すること。（３年「ありの行列」、「せつ明書を作ろう」、４年「ツバメがすむ町」、「新聞記者になろう」）	○文章全体における段落の役割を理解する。（言語事項）
○書こうとすることの中心を明確にしながら段落との続き方に注意して書く。（３年「ことばでスケッチ」、４年「お元気ですか」、「ツバメが住む町」、「新聞記者になろう」、「グラフをもとに」）	○文と文の意味のつながりを考えながら指示語や接続語を使う。（言語事項）

指導にあたっての工夫

・『わたしたちの体について調べよう』の単元に入る前にこの単元の中で繰り返し指導される既習事項（言語事項：接続語、指示語、形式段落、国語辞典など）を明らかにし、復習する場面を設定した。

・説明的な文章の単元の中で言語事項を逐次取り上げ、書くことにつながる単元構成を考えた。さらに、単元の中でも「基礎的・基本的な内容」を繰り返し扱うことで、定着が図られると考えた。

・本単元で定着を図る「関心・意欲・態度」「読むこと」「書くこと」「言語事項」を必要な「基礎的・基本的な内容」としてとらえ、学習過程の中に確実に位置付け、各学習時間における重点的な内容を明確にする。このことにより、より効果的な支援を行えるようにした。

（２）実態把握

児童一人一人にきめ細やかに支援していくためには、まず児童一人一人の既習事項の定着の実態を把握することが重要だと考えた。昨年度、都が実施した「基礎的・基本的な内容の定着に関する調査」の国語の問題を実施し、その中で本単元に関係する「指示語」「接続語」「形式段落の理解」「内容の理解」を取り出し分析した。形式段落の分け方や、指示語の指導内容の定着が十分に図られていない傾向が見られたため、さらに本単元に関連のある指導事項について実態調査を行い、その定着状況を把握し、単元構成に役立てていくこととした。

（３）指導と評価の一体化

指導と評価の計画

教材研究によって明らかにした本単元で定着を図っていきたい基礎的・基本的な内容を基に主たる評価規準を指導と評価の計画に位置付けた。

また、一人一人の本単元に必要な既習事項の定着状況や、主たる評価規準を基に形成的評価を記録していく「個別支援カード」を作成した。その記録を基に一人一人の児童に、学習過程の「どの場面で」「どのような支援」が必要なのか支援計画を立てた。

少人数学習集団による指導

第１次「読むこと」における児童一人一人の定着状況に対応し、きめ細やかな支援を行うために、第２次「書くこと」においてコース別の学習を設定した。

「個別支援カード」を基に、「書くこと」の学習では、教師と一緒に進めていく「短作文Ａ」のコース、自分で進めていく「短作文Ｂ」のコース、長文の参考資料を基に教科書の続編を書き進めていく「説明文」のコースの３コースを設定した。

また、児童の自己評価と教師による評価の差を最小限に抑えられるように学習のねらいや評価の観点を明確にした児童の自己評価カードを作成した。児童が自己評価をする力を育ててくことと同時に、最後まで意欲的に取り組んでいけるようにするため、コースは児童が自己評価した評価内容を基に自らが選択していくようにした。

他教科等での活用

本単元で学んだ基礎的・基本的な内容は、次の「調べたことをほう告しよう」の、調べたり考えたりしたことをまとめて書く単元で、繰り返し活用する場面設定をする。また、社会や総合的な学習の時間などで、調べたことをまとめていく学習の中でも繰り返し活用していく場面設定をする。